

ドイツの学生と共に学ぶ医学

科目責任者：矢澤卓也（病理学）

I. 前文

明治14（1881）年に設立された「獨逸學協會」をルーツとする獨協医科大学にとって、ドイツは特別な意味を持つ国です。そのため、本学はミュンスター大学やレーゲンスブルク大学といったドイツの大学と協定を結び交換留学などを積極的に行っています。

この科目は、ドイツの医学教育や医療に関心のある人やドイツ留学に興味のある人を対象として、ドイツ人の医学生と直接コミュニケーションしながら共に医学を学ぶ機会を設けることを目的としています。使用言語は英語ですが、お互いに母国語ではないので臆する必要はありません。専門的な医学知識は必ずしも必要無いので1年生でも参加可能です。もちろん、基礎医学や臨床医学を既に学んでいる上級生の参加も歓迎します。

II. 受入可能人数

5～10名を想定していますが、人数は特に制限しません。（令和7年度は、1年生5名と4年生1名）

III. 担当教員

矢澤卓也	（病理学）
ヴォルフガング・アーデ	（教育開発・国際交流センター／特任教授）
能登慶和	（基本医学 語学・人文教育部門／准教授）
ウィリアム・ハセット	（教育開発・国際交流センター／特任講師）
クリス・スミス	（教育開発・国際交流センター／講師）
ピーター・キマニ	（教育開発・国際交流センター／助教）
アビド・ハミド	（教育開発・国際交流センター／助教）
ベルンハルト・マーシャル	（ミュンスター大学 医学部 教育・学務研究所／教授）
マルティナ・ミュラー - シリング	（レーゲンスブルク大学 医学部 第一内科／教授）

IV. 学習内容

- ・年に数回、ドイツの医学部とオンライン・ミーティングの機会（自宅などからも参加可能）を設けます。
- ・ミーティングでは、医学・医療に関するテーマについて事前に作成した資料を日独の学生がお互いに英語でプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。
- ・プレゼンテーション資料の作成や発表準備は学生同士で相談しながら行いますが、必要に応じて担当教員がサポートします。

V. 学修の到達目標

本学医学部のディプロマ・ポリシーの一つである「国際性：国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる」が大きな目標です。そのための下位項目として以下のものが挙げられます。

- ・日本の医学・医療について英語で説明し、ディスカッションを行うことができる。
- ・ドイツの医学・医療について英語での説明を理解し、ディスカッションを行うことができる。
- ・医学・医療に関する情報交換やディスカッションを英語で行い、知識を身につけることができる。
- ・国際的な視点から医療に従事するための英語コミュニケーション能力や素養を身につけることができる。

VI. 成績評価の方法・基準

「プレゼンテーションの準備状況」、「オンライン・ミーティングでの発表状況」、「ディスカッションにおける積極性」および「英語コミュニケーション能力」について評価を行います。配点の目安は、それぞれ30, 30, 20および20です。ミー

ティングの事後レポート（英語で200 words程度）を作成してメールで提出してもらい追加評価を行う場合があります。
 なお、出席回数が全体（10コマ程度）の2/3に満たない場合は、成績評価の対象としません。

VII. 使用する教材・資料など

- ・ Zoom 接続が可能なパソコン、タブレットあるいはスマホなどの端末（マイク、スピーカーおよびカメラのあるもの）を各自用意してください。学外から参加する場合は通信料金が発生することがあります。
- ・ 各回のテーマに関する資料については、その都度、担当教員も一緒に相談しながら決めていきます。

VIII. 質問への対応方法

質問は、科目責任者へのメール（m-masuda@dokkyomed.ac.jp）にて随時受け付けます。科目責任者以外の先生方への質問は英文で書いたメールを上記アドレスに送ってくれば転送します。

IX. 求められる事前学習、事後学習及びそれに必要な時間

【事前学習】

- ・ 各プレゼンテーションの準備（自身の分担内容に関する情報収集とスライド作成）：1～2時間
- ・ 説明用の英語原稿作成：30分～1時間

【事後学習】

- ・ 各回のプレゼンテーションやディスカッションの内容に関する振り返り：約30分
- ・ レポート作成（必要な場合）：約1時間

X. コアカリ記号・番号

LL-01-01-01, RE-01-01-02, (RE-02-02-01) , IT-02-01-02, (IT-03-01-02) , IT-03-02-01, SO-05-02-01, SO-05-02-02

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

科目責任者または他の担当教員からメールでコメントを送ります。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	◎
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	